

▶ 創薬支援サービス「Tokyo-1」のIT環境を導入し、製薬会社による利用開始

2024年2月8日



三井情報は、株式会社Xeurekaが運営する国内の創薬をはじめとするヘルスケア業界におけるイノベーションハブ構築を目指すプロジェクト「Tokyo-1」にIT環境を導入し、製薬会社による利用が開始されました。



▶ 東京海上日動火災保険へ営業支援アプリ「Vymo」を導入

2024年2月13日



Vymo Japanと三井情報は、モバイル営業支援アプリケーション「Vymoアプリ」を東京海上日動に導入し、約3,000人が利用を開始しました。アプリの提供を通じ、DXによる営業活動の高度化を支援します。



▶ 進和が保有する小牧SFICラボへローカル5G導入

2024年2月22日



三井情報と、シスコ、KDDIエンジニアリングは、株式会社進和が保有する小牧SFICラボへローカル5Gシステムを導入しました。生産プロセスの革新と生産性向上を実現するスマートファクトリー化を支援していきます。



トピックス

2023年12月25日

クリケット男子日本代表のパートナー契約を締結



契約期間となる2026年12月までの3年間、プラチナパートナーとして、着用するユニフォームやウェアなどに三井情報のロゴを掲出します。



トピックス

2024年1月22日

森トラストと地域活性化を促すスマホアプリ「MIALK 神谷町」を活用した実証実験を開始



本実証実験を通じ、神谷町エリアに多様な人々が集い、創造性を高めあうことで新たなイノベーションを実現する拠点になることを目指します。



トピックス

2024年1月31日

千葉興業銀行へ国際送金業務のデジタル化ソリューション「MOCT-FT」を導入



国際送金業務のデジタル化をSaaSで実現し、業務の効率化やペーパーレス化に加え、ISO20022等にも柔軟に対応できるよう支援していきます。



トピックス

2024年2月27日

ローカル5G環境でiPhone/iPadの接続およびキャリアとのDual SIM接続に成功



Apple Inc.製の端末がDruid Softwareの提供するRaemis™コアで構築したローカル5G環境への接続に成功し、Dual SIMで正常に動作ができることを確認しました。



ローカル5Gとは何か？

ローカル5Gとは？

ローカル5Gとは、一般企業や自治体などが主体となり、個別のニーズに合わせて構築・運用することが可能な自営用5Gネットワークです。免許を申請し、周波数を利用者として割り当ててもらうことで、高速大容量・超低遅延・多数同時接続の3つの特長をもつ5G（第5世代移動通信システム）を専用のネットワークとして活用することができます。

また、ローカル5Gは携帯キャリアが提供する5G（キャリア5G）と比較して、通信障害やネットワーク混雑の影響を受けにくく、個々の通信要件を満たすようカスタマイズした5Gが構築できるといった特長があります。



ローカル5Gを3つの観点から見てみる



①免許制度について

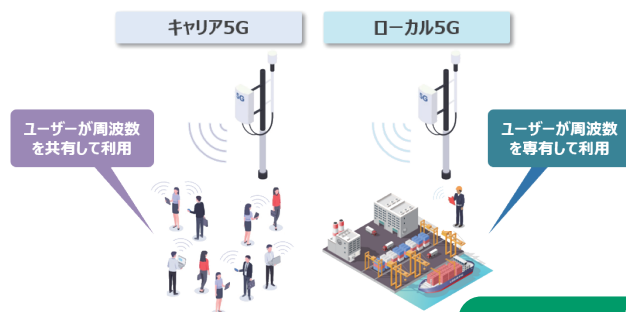
電波の利用には基本的に無線局免許の取得がルールとされています。また、プライベートなネットワークとして利用されることから、通常の無線局免許とは別に、ローカル5Gならではの利用ルールが個別に定められています。

②周波数について

電波を媒体とする無線通信においては、周波数の割り当てが重要になります。ローカル5Gでは、携帯通信キャリアが提供する5Gサービス用の周波数とは別にローカル5G専用の周波数が割り当てられています。そのため、キャリア5Gのように大衆ユーザーの影響を受けずに利用することができます。

③技術について

ローカル5Gは特有の技術が存在しているわけではなく、携帯通信キャリアが提供するものと同じ5Gの技術が使われています。高速大容量・超低遅延・多数同時接続という3つの特長からわかる通り、これまでの無線アクセスシステムよりも進化したテクノロジーの活用が可能です。



まとめ

総務省の公開情報によると、令和6年2月29日時点でローカル5Gの免許を取得した事業者/団体等は166者となっています。

制度開始からの数年は先行的な免許取得者によるシステム知見の蓄積や利活用の面での習熟に充てられてきており、今後はローカル5Gの特長を活かすことのできる事例を中心として、広く導入・活用が進むとみられています。

三井情報は、令和3年7月にローカル5Gの免許を取得しております。ローカル5Gに興味がある方はお気軽にご相談ください。

[本コラムの詳細はこちら](#)



ローカル5Gが注目されている理由



①5Gの技術メリットを得られる

5Gは通信速度・カバー範囲・通信遅延・セキュリティ・モビリティといった様々な観点で優位性をもつ新しい通信技術です。ローカル5Gでは、5Gがもたらす技術的なメリットを自分たちが主体となって得られるということがまず挙げられます。

②周波数を専有できる

周波数リソースを共有する場合、他のユーザーの使用状況によって通信速度や通信遅延などが劣化し、5Gの技術的なメリットが定常的には得られなくなる場合があります。周波数リソースを専有することで、安定して業務への5G活用を継続できるということが言えます。

③携帯キャリアに依存しない

人口の少ない地域など、キャリア5Gがそもそも利用できない場合があります。また、大衆ユーザーに対する画一的な通信サービス提供を基本とするため、個々の通信要件を満たすことが難しい場合があります。さらには、設備の通信障害の影響を受ける可能性もあります。これらの懸念事項を許容できないユーザーは、ローカル5Gによって、携帯通信キャリアに依存しない形で5Gネットワークを利用できるということが言えます。

